

## Teaching Kanji for Thai learners: Kanji is a ‘picture’

## タイ人学習者のための漢字の教え方

## —漢字は「絵」であるという発想を用いて—

## การสอนคันจิเพื่อผู้เรียนชาวไทย: คันจิคือรูปภาพ

なかやまみつお  
\*中山光男ようし  
要旨

1947年ボピットピムック学校で日本語講座が開設されて以来、タイの教育機関にお

ける日本語教育が始まりました(国際交流基金, 2017)。そして、既に半世紀をすぎています。質量ともに増大した現在ですが、「漢字」が日本語教育上の問題の一つであることは変わりません。

どうして「漢字」が日本語教育上の問題なのでしょう。私は、その原因は教え方・学び方の方法にあると考えています。では、「漢字」をどのように教えれば、また、どのように学べば「漢字」は易しくなり、そして楽しくなるのでしょうか。

わたしは長い間、タイでの日本語教育の第一線にいます。本稿で扱ったのは、その経験から得たその答えのヒントとなるものです。

キーワード 日本語教育、漢字教育、面白い漢字

\* มิตรชูโอะ นากายามา ที่ปรึกษากาชาภาษาญี่ปุ่น คณะศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยรังสิต

## ABSTRACT

Japanese language Education in Thailand has a history of more than half a century. It has been developed in both quantitative and qualitative terms. However, the teaching of Kanji is still a problem from the past to the present.

Kanji is a problem because the way to teach Kanji is a problem. Therefore, to change the way to teach Kanji to be more fun and easy-to-remember way is the key.

The writer is in the field of teaching Japanese in Thailand for over 40 years. The knowledge and experience gathered in this article.

**Keyword:** Japanese language Education, teaching kanji, Kanji is Interesting.

## บทคัดย่อ

การเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นในประเทศไทยมีประวัติความเป็นมาอันยาวนานกว่าครึ่งศตวรรษ มีพัฒนาการทั้งในเชิงปริมาณและในเชิงคุณภาพ อย่างไรก็ตาม การเรียนการสอนคันจิยังคงเป็นปัญหามาโดยตลอด นับจากอดีตมาจนถึงปัจจุบัน

คันจิเป็นปัญหาเพราะวิธีการสอนและวิธีการเรียน จึงควรหาวิธีที่จะเรียนคันจิได้สนุกและจดจำได้ง่าย ในฐานะที่ผู้เขียนอยู่ในวงการการเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่นในประเทศไทยมากกว่า 40 ปี จึงได้รวบรวมข้อมูลความรู้ตลอดจนประสบการณ์นำมาเขียนไว้ในบทความนี้

**คำสำคัญ :** การเรียนการสอนภาษาญี่ปุ่น การสอนคันจิ คันจิสนุกน่าสนใจ

## 1. はじめに

「漢字」をどのように教えれば、また、どのように学べば「漢字」は易しくなり、そして楽しくなるのでしょうか。私にこのヒントを考えた源を与えて下さった方がお二人います。お一人は武部良明・早稲田大学元教授で、漢字一般さらに漢字の教え方についての知識・認識を基本的なことから教えていただきました。

「漢字は文字ではない。図形である。これが私の漢字教育の基本である。／『木』の絵を見て、『木』を思い浮かべること。これが図形としての漢字の覚え方である。／漢字は、『木』のように絵が基本になっている。実際には絵を簡略

にして図案化してあるから図形とっているが、絵であることに変わりはない。  
漢字は絵に基づく図形である。」(武部, 1989: 7-11)

漢字の研究書では、よく「この字の旧字体は. . . である。だから. . . という意味なのである」とか、「この部分は. . . という意味を示し、この部分は. . . という音を表している」と説明されています。それに対して「全ての説明を現在の字体で説明しなければならない」「漢字の全ての部分が意味を構成している」とのお考えでした。

これこそ、これまでの漢字教育の考え方を覆す画期的なものだと、私は考えます。

もうお一人は河部利夫・東京外国語大学名誉教授で、「知る」ことは文献による研究からでも可能だが、「知った」ことを「分かる」こと、「分かった」ことを自ら「体験」してさらに「感じる」ことこそが最も大切なことなのだ、と教えていただきました。

言語の能力技能は普通、「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能とされていますが、私は河部先生に教えていただいたように、初めからこれにもう1つ「考える」を加えた日本語の指導を行っています。さらに、学習者が自ら「知る」「分かる」、そして「感じる」ことができるような教育を絶えず心がけてきました。

武部先生の「『木』の絵を見て、『木』を思い浮かべること。これが図形としての漢字の覚え方である」というお考えの「思い浮かべること」とは即ち、「感じる」ことにつながることなのだ、と私は理解しています。

## 2. 日本語と漢字

漢字は、面白いのです。色々の歴史や文化の側面を物語ってもくれます。

さらに、漢字がわかれば分かるほど、その不思議な特徴や便利な特徴がわかれば分かるほど、日本語がそれだけ、いやその何倍も分かると思じています。

本稿では、どうすれば、漢字が面白く眺められるのかをお話していきます。でも、その前に知っておいてほしいことが幾つかあります。

## 2.1 初めて学ぶ漢字

タイには中国系のタイ人が少なくありません。中国系の人たちが多く居住するヤワラート街には、中国語で書かれた看板が数多く見受けられます。そこで生まれ育った中国系タイ人たち、ルーク・チーンはほとんどが親世代の話す中国語は聞いてもほとんど分からず、また、話せる人も非常に少ないのです。

私の学生の多くを占めるルーク・チーンにとって学習したことがない中国語文字は、恐らく、文字ではなく、図形にしか見えないのです。

日本語の漢字を初めて見るタイ人学習者にとっても、同じことなのです。漢字を見ても、図形にしか見えない学習者に文字として与え、さらに無条件に「覚えろ」と言っても、これは苦痛以外の何物でもありません。

## 2.2 漢字は難しいのか

日本語学習者が「日本語は難しい」と感じる理由の一つは、「漢字」です。漢字の何が難しいか。学習者が難しく感じるのは①字種が無限である ②字画が複雑である ③読み方が多様である、の三つの項目を挙げられます(武部, 1989)。

①字種が無限である：2010年に新常用漢字2136字が定められました。とはいうものの、「漢字2字以上からなる単語数はいくつ?」と問われれば「無限」です。これは大変なことです。

②字画が複雑である：漢字は線の数が多くて複雑ですが、覚えなければならぬのです。画数が多い漢字を見ただけで学習意欲が失われる学習者も多いのです。

③読み方が多様である：まず、漢字一字一字に音訓の二通りの読みがあり、音訓それぞれに複数の読みがあることも多いのです。そして、読み方によっては意味が異なる場合もあります。これも全部覚えなければなりません。別の言い方をすれば、同じ読み方の漢字が幾つもあるということにもなります。いつ、どのような場合にどの漢字を使うのかも覚えなければなりません。つまり、漢字の意味を覚

วารสารศิลปศาสตร์ มหาวิทยาลัยรังสิต

えなければならないのです。例えば、次の文には、いくつもの「き」がありますが、全部異なる漢字で書かれます。

例 あのおおきなきには、きいろいはながさいている。

= あのおおきな木には、きいろい花がさいている。

例 きのうきたきたむらさんというひとは、きれいなきものをきていました。

= きのう来た きたむらさんという人は、きれいな着物を着ていました。

つまり、「覚えるのが大変だ」ということなのです。言い方を変えれば、「簡単に覚えられる方法があれば、漢字は難しくはない」ということなのです。

## 2.3 漢字の指導

漢字が易しく覚えられるかどうかは、日本語学習に大きな影響があるのです。そして、日本語教育上の大きな問題点であることも、現実なのです。もっと簡単に覚えられれば、日本語教育の成果は大きな進展が望めるのです。

ところが、実際には教える側にも、あるいは学習する側にも「漢字は覚えるものだ」という認識の人が多のが現状です。漢字を教える教師にしても、かつては、漢字の習得に苦労した学習者であったわけです。学習者の苦痛は知っているはずですが、かつて自身が経験したように「こういう字はダメ、そういう字は間違い」と言うだけで何が誤りなのかを説明しない指導や、字の書き順や画数にばかり重点を置き、そして「後は、きれいに書けるようにたくさん書いて練習なさい」「意味も一緒に覚えなさい」というだけの指導が多いのも事実です。

これでは、学習者の漢字能力の向上には余り役に立ちません。それどころか、「漢字は難しい」と思い込ませるだけの結果となり、さらに、自身がかつてそうであったような漢字嫌いの学習者を増やしているだけなのです。中級・上級段階で激増する漢語語彙に対処しきれず、そのために本来期待できるはずの成果が獲得できないという結果につながっているのです。

しかし、「教師が少しも気がついていない」「教師が教え方を理解していない」と一方的に教師を責めるのは、酷なようです。楽しく学習でき、易しく覚えらるる学習法があれば、教師も当然、採用しているはずで、そういう学習法がこれまで確立さ

れていないためなのです。学習時間が十分でないのも大きな問題です。

## 2.4 日本でも漢字は「難しい」

日本の子供たちにとっても漢字学習は大きな問題となっています。問題の本質は全く同じです。そして、これまでに漢字に関する書籍が子供たちのために数多く発行されています。漢字の意味を一字一字、どうしてそのような意味を持つのかを説明し、子供たちが楽しく学習できるように努力はしています。

しかし、色々な漢和辞典などの漢字の意味についての説明をよく読んでも、分かり難いのです。恐らく教師が読んでも子供たちには説明できない項目が多いでしょうし、そのようなものは子供が自分で読んだらまず分かりません。

ですから、日本の子供たちにとっても漢字の学習は少しも楽しくありません。楽しいのは少数の象形文字だけでしょう。見て直ぐに絵が思い浮かびますから。ただ、最近はコンピューターによって楽しそうな画面も多々できていますが、ただ面白いだけで、どうしてそうなるのかは見てわかるものは少ないようです。納得できないものは、楽しい学習にはつながりません。

では、どうすればいいのか。それが本稿の課題です。

## 3. 漢字は面白い

本稿では、漢字は「絵」であるという発想をその根本におきます。そして、漢字を楽しく面白く、かつ易しく覚えるために、「絵」の形から意味を覚えていこうというのが本稿の基本姿勢です。漢字一字一字について、一つの漢字を幾つかの構成部分に分けて、こういう理由でこういう意味を持つのだということを理解していきます。そして、漢字が幾つか組み合わせることができる漢語については、一つ一つの漢字の意味を組み合わせ、新しい意味が成立することを理解していきます。

### 3.1 「白」「明」「東」「朝」の意味

漢字「白」の意味は、どうして「しろい」なのでしょう。

漢字「明」の意味は、どうして「あかるい」なのでしょう。

漢字「東」の意味は、どうして「ひがし」なのでしょう。

漢字「朝」の意味は、どうして「あさ」なのでしょう。

分かったら、面白いでしょうね。そうです。漢字は面白いのです。意味を知ることは、楽しいことなのです。本稿は、漢字が面白いものを感じられるようにしたい、という長い間の念願から書きました。

では、上の4つの漢字と3つの漢語について説明しておきましょう。この説明を読んで「面白い」、「楽しい」と感じるでしょうか。

漢字「白」の意味は、どうして「しろい」なのでしょう。

「白」という漢字の「日」は「太陽」で、「太陽」から1本の光線が出ている「絵」なのです。そういえば、台湾の晴天白日旗は太陽そのものが白です。また、ネパール国旗にも白色の太陽があります。ところで、太陽光線は科学的に白色であることは、よく知られていますし、タイの中学校2年生の科学の教科書にも、はっきりとそう書かれています。また、次のように白色の太陽を描いた国旗も存在しています。



図1： 青天白日滿地紅旗： 白色の太陽

しゅってん  
出典

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%BB%E5%83%8F:Flag_of_the_Republic_of_China.svg)

[94%BB%E5%83%8F:Flag\\_of\\_the\\_Republic\\_of\\_China.svg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%BB%E5%83%8F:Flag_of_the_Republic_of_China.svg) (参照 2018-7-16)



図2： ネパール国旗： 白色の太陽

しゅってん  
出典

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%BB%E5%83%8F:Flag_of_Nepal.svg)

[94%BB%E5%83%8F:Flag\\_of\\_Nepal.svg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%BB%E5%83%8F:Flag_of_Nepal.svg)

(参照 2018-7-16)



まず、「日」が何故「太陽」なのかを説明しましょう。

「日」の外側の「口」は太陽を表わします。丸い太陽が何故、四角く書かれるのでしょうか。漢字の始まりの頃は「〇」と書かれていましたが、「絵から「字」へ移る過程で「〇」から「口」へと変わったのです。



図3：太陽黒点

しゅってん  
出典

<https://matome.naver.jp/odai/2146884918499522201>

(参照 2018-9-30)

それでは、「口」の中の「一」は何なのでしょう。これは、元々は「・」で、太陽の中の黒点なのです。太陽には昔から黒点があったということです。ということで、この「・」も「絵」から「字」への過程で「一」に変わり、「日」となりました。

次に「明」という漢字にはどうして、「あかるい」という意味があるのでしょうか。「明」という漢字は、左右2つの部分から成立しています。「日」(＝「太陽」)と「月」からできています。これで明るくなかったら、不思議ですね。

一般にはここまでの説明でもいいのです。が、左部分とは方向の「東」、そして右部分は方向の「西」を示すのです。「明」の意味は、「東に太陽が昇る+西に月が沈む」ことで、言い方を変えれば「朝になって、明るくなった」ということになるのです。「日」の方が「月」よりも小さいのは、朝は「日＝太陽」の方が「月」よりもまだ小さく見えるからです。

それでは、「月」は何故、พระจันทร์ moonなのでしょう。次のように考えましょう。「太陽」も「月」も丸いものです。でも、「太陽」に「〇」を使いましたから、「月」には別の形を使います。

「月」が「太陽」と異なるのは、「満ち欠け」があることですね。特に「三日月」が特徴的です。「月」は、「三日月」に雲がかかっているという形なのです。





ず みかづき  
図4：三日月

しゅってん  
出典

<https://matome.naver.jp/odai/2146884918499522201> (参照 2018-9-30)



ず つき くも  
図5：月と雲

しゅってん

出典 <http://miray109.com/blog/?p=3320>

さんしょう  
(参照 2019-1-23)

「東」という漢字にはどうして、「<sup>かんじ</sup>東」  
。「<sup>ひがし</sup>東」という漢字は、「<sup>き</sup>木」(の<sup>みき</sup>幹)の<sup>うし</sup>後ろに「<sup>ひ</sup>日」(=<sup>たいよう</sup>太陽)の<sup>のぼ</sup>昇って  
きているという意味で、<sup>ひ</sup>日<sup>のぼ</sup>る<sup>ほうこう</sup>方向は「<sup>ひがし</sup>東」です。

「木」には、ต้นไม้ tree という<sup>い</sup>意味があります。「木」は<sup>ま</sup>真<sup>なか</sup>ん<sup>たてせん</sup>中の<sup>たてせん</sup>縦線が  
「<sup>き</sup>木の<sup>みき</sup>幹」で、<sup>うへ</sup>上の<sup>よこせん</sup>横線は「<sup>き</sup>木の<sup>えだ</sup>枝」です。そして、<sup>した</sup>下の<sup>さゆう</sup>左右に<sup>なが</sup>流れる<sup>せん</sup>線は「<sup>き</sup>木の  
<sup>ね</sup>根」なのです。



ず き  
図6：木

しゅってん

出典 <https://hire39.com/kanji-naritachi-3/4> (参照 2018-8-5)

「朝」にはどうして、「<sup>あさ</sup>あさ」という<sup>い</sup>意味があるのでしょうか。「朝」と  
いう漢字は、「<sup>十</sup>十」と「<sup>十</sup>十」の<sup>あいだ</sup>間に「<sup>ひ</sup>日」があつて、その<sup>みぎがわ</sup>右側(西)に「<sup>つき</sup>月」があ  
るといふ字です。

「<sup>十</sup>十」と「<sup>十</sup>十」は、<sup>うへ</sup>上の<sup>え</sup>絵のように<sup>えだ</sup>枝と<sup>ね</sup>根の<sup>あいだ</sup>間に<sup>たいよう</sup>太陽があり、つまり、  
<sup>ひだりがわ</sup>左側(=<sup>ひがし</sup>東)の<sup>たいよう</sup>太陽はまだ<sup>たか</sup>高い<sup>ところ</sup>所に<sup>のぼ</sup>まで<sup>のぼ</sup>昇っていない、そしてその<sup>とき</sup>時には<sup>みぎがわ</sup>右側(=<sup>にし</sup>西)にはまだ

「月」が残っている、そういう時間帯は「あさ」<sup>じかんたい</sup> morning と呼ばれるわけ  
 けです。

こう考えることもできます。「十」は「草の芽」の形をしています。漢  
 字の「草」の上の部分、つまり「草かんむり++」は「草の芽」が横に二つ並んで  
 いるところです。

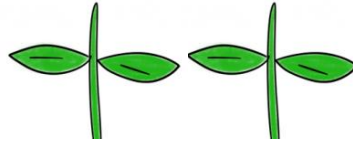


図7：草かんむり

出典 <https://hire39.com/kanji-naritachi-1> (参照 2018-7-16)

「十」(=草の芽)と「十」(=草の芽)との間に「日」(=「太陽」)  
 があり、左側(=東)の太陽はまだ低い所にあつてその時には右側(=西)には  
 まだ「月」が残っている、そういう時間帯は「あさ」<sup>じかんたい</sup> morning と呼ばれるわけ  
 けです。

ただ、北半球にいる私たちにとっては「東が左で、西が右」というこ  
 とに違和感を持つことはありませんか。違和感を抱くのは、当然のことです。これ  
 は、中国には

古くから「天子南面」という言葉があり、歴代王朝皇帝の玉座は必ず南向  
 きであったから「東が左で、西が右」となるからなのだそうです。

平安時代の日本の都は京都、京の都です。京の都は、中国の唐王朝  
 の首都長安を模して造営したといわれています。京の都には天皇のお住まいであ  
 った京都御所が現在も残っていますが、御所の天皇の御座所はやはり南向きなのだ  
 そうです。現在も残っている左京区・右京区という行政単位は、御所から見てそれ  
 ぞれ左側、右側に位置しています。

「明」という漢字を見ると、「白」が左側で「月」が右側です。つまり南向きに座っている皇帝から見て左側は東で、右側は西になるというわけなのです。

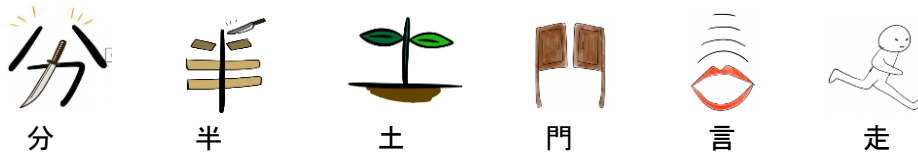


図8：いろいろな例

出典 <https://hire39.com/kanji-naritachi-1/2/3/4/9> (参照 2018-8-5)

ところで、武部先生に、「『図形』の説明内容は全て真実でなければならないのでしょうか」と、お訊きしたことがありました。先生は「説明の目的は学習者に楽しく易しく覚えさせることです。説明内容が真実であるかないかは、重要なことではないのです。」と、仰いました。このお言葉は、私に多くの勇気を与えてくれました。

#### 4. まとめ

タイ国で日本語教育が始められて70余年になります。その間、指導上学習上の一つの大きな問題が漢字がであることに変わりはありません。漢字能力が、特に中級以降の日本語理解に占める割合がかなり高くなるからです。この問題が解決できないのは、教える側に責任があることは言うまでもありません。では、どのような教え方をすれば、学習者に高い興味を持たせることができるのでしょうか。学習者の漢字教育への不満は、覚えるのが大変だということなのです。それから、覚えやすい教え方をすればいい、ということになります。私の提案は、漢字は「絵」であるという発想から、漢字を幾つかの構成部分に分け、それぞれの部分を「絵」にあて、全体としての意味を理解させる方法です。そして、学習者が慣れてきた段階で、学習者自身に漢字をこの方法で説明させるという活動はきっと大きな楽しいものであるに違いありません。こうして、漢字への興味が高まっていけば、教師の役目はほぼ終わるはずで、後は、学習者が教師以上に楽しい発想を繰り返して上げていってくれるでしょう。

さんこうぶんけん  
参考文献

こくさいこうりゅうききん (2017) 「日本語教育 国・地域別情報：タイ (2017年度)」

<<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/thailand.html>> (参照 2019-6-5)

Japan Foundation (2017) Nihongokyōiku Kuni Chiikibetsu Jōhō [Japanese Education Information by Country and Region: Thailand (Year 2017)]

<<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/thailand.html>> (Ref:2019-6-5)

さとうきよよし (1988~1989) 『漢字講座』 1-12, 明治書院

Satō Kiyoshi et al (1988-1989) Kanji Kōza [Kanji Lesson] (pp.1-12). Tokyō: Meiji Shoin

佐藤けいこ (2018) 「日本語教師は見た外国人のための漢字の教え方・イラスト」

<<https://hire39.com/kanji-naritachi-1/2/3/4/9/>> (参照 2018-8-5)

Satō Keiko (2018) Nihongo Kyōshi wa mita gaikokujin no tame no Kanji no oshiekata & irasuto [An Illustration and Teaching method of Kanji for Foreigner by Japanese Teacher]

<<https://hire39.com/kanji-naritachi-1/2/3/4/9/>> (Ref:2018-8-5)

しらかわしずか (2005) 『常用字解』 平凡社

Shirokawa Shizuka (2005) Jōyōjikai [A Comprehension on Kanji in common use] Tokyō: Heibonsha

たいしゅうかんしょてん (2018) 「漢字文化資料館」 <<http://kanjibunka.com/>> (参照 2018-7-16)

Taishūkanshoten (2018) Kanjibunkashiryōkan [A Kanji Culture Museum]

<<http://kanjibunka.com/>> (Ref:2018-7-16)

たけべよしあき (1989) 『漢字の教え方：日本語を学ぶ非漢字系外国人のために』 アルク

Takebe Yoshiaki (1989) Kanji no Oshiekata: Nihongo wo manabu hikanjikeigaikokujin no tameni

[How to teach Kanji: For Non-Kanji country Japanese learner Tokyō: Aruku]